



雨ニモマケズ

12月26日

「命の教育」

校長 原 直樹

中津川市には「命の教育」があります。中津川市の「命の教育」は、中学生が殺害されるという、平成18年に起こった痛ましい事件をきっかけに始まりました。「中津川市から命を失う子を二度と出さない」ために、市の教育委員会が事務局となり、当時の学校職員が集結して「命の教育推進委員会」を発足し取り組み始めたものです。市内の各園、各小中学校では、それぞれに、年間を通して「命の教育」に関わる教育活動を繰り広げてきました。福岡中でも、例えば今年も、4月に福岡駐在所の石川巡査部長さんから、交通安全を題材に「命の重さ、その命が一瞬でなくなる恐ろしさ」を、自転車運転の実演を交えて語っていただきました。これは、全校生徒対象に行ったものでした。そして、この12月には、前田動物病院の前田敬生先生から、2年生が「命の授業」をしていただきました。前田先生は、15年前から、精力的に毎年市内の全小学校（18校）すべてで「命の授業」を行われています。今年度から、中学校でも「命の授業」を始められ、この度福岡中に来てくださいました。（12/21の岐阜新聞にもその時の記事が掲載されました）

前田先生の「命の授業」は、以下のような内容でした。（メモ書きをざっと羅列します）

【命の授業テーマ：「生きている」ってどういうこと？】

- 動物病院にやってくる動物の紹介。川上の夕森で釣り糸に絡まって傷ついたフクロウの治療と介護、野生に返すまで。野生動物の「命」も大切な「命」である。
- 東日本大震災のとき福島県まで行って出会った老人と飼犬のこと。絶望の中でも、ペットは人に生きる希望を与えてくれる。人の心を癒やしてくれる。
- 心臓はどんな音がする？ 人間の心臓の音を聴きました。次に、前田動物病院に迷い犬として預かって以来、命の授業のアシスタント犬として同行している「クリスちゃん」の心臓の音を聴きました。さらに、柴犬の「芝ジイ」の死の瞬間のお話から、心臓が止まることは「死」を意味すること、一度死んだ人や動物の命は一つしかないことを訴えられました。
- 食事のとき、「いただきます」「ごちそうさまでした」はなぜするの？ 生きていることは、動物や植物の命を頂き、命をつないで生きること。だから動植物に感謝の気持ちを込めて「いただきます」と言うこと。
- 人間も犬や猫と同じ動物である。人や人以外の動物のことを、彼らの立場になって考えられるのは人間だけ。相手を思いやって生活することがいかに大切か。相手の心が温かくなる「ほかほか言葉」をたくさん使いたい。相手の心が傷つく「ちくちく言葉」は、例え冗談でも使わない。無意識のうちにいじめに、そして、相手の「命」を奪う場合もある。
- 私たちの「命」は先祖から引き継がれ、次世代につなげていくもの。家族や先祖がいたから今の自分がいることを認識し感謝する気持ちを大切に。
- まとめとして、「生きている」ってどういうこと？ 相手に感謝する気持ちを持つこと。感謝の気持ちを伝えること。人は一人で生きているのではない。家族や友達、地域の人等、多くの周りの人と支え合っていくことが、生きていくということである。

とてもたくさんのお話を話していただきました。2年生の生徒は、命の尊さについて深く学ぶよい機会を得ました。この日、前田先生からは、家族とも「生きている」ってどういうこと？を考える宿題が出されました。前田先生のお話から、家族でもなにかしらの話の広がりが生まれたことを期待しています。

